

気管支ぜんそくは発作に麻黄を処方

Q 三十歳、母親。五歳になる長男は一歳のころ、気管支ぜんそくと診断されました。その後かぜをひくたびに発作を起こし、季節の変わり目や冬には入院を繰り返します。小学校に入るまでに何とか丈夫な体にしてあげたいのですが。

くしゃみ・鼻水・水のようなたんを伴い、ヒューヒュー苦しむタイプには小青竜湯（しょうせいりゅうとう）がよい。せき込みがひどく、たんが切れにくい場合は麻杏甘石湯（まきょうかんせきとう）を使う。

A 小児ぜんそくはほとんどがアレルギー性のアトピー型と呼ばれるもので、遺伝的要素が強い。しかし根気よく漢方薬を服用すれば体質改善は可能である。

漢方では発作の時の治療薬と寛解期（発作のない時期）の治療薬を分けて使う。発作の時は一般的に麻黄（まおう）という生薬を含む処方を用いる。麻黄にはエフェドリンというぜんそくに極めて有効な成分が含まれている。

一方、寛解期には体質改善のために柴胡（さいこ）や芍薬（しゃくやく）という生薬を含む処方をよく用いる。最もポピュラーな処方柴朴湯（さいぼくとう）である。

質問者のようにかぜが引き金になるタイプの小児には、胃腸を丈夫にし発作の起こらない体にすることを目指す。補中益気湯（ほちゅうえつきとう）、人参湯（にんじんとう）、小建中湯（しょうけんちゅうとう）、六君子湯（りっくんしとう）などが好んで使用される。